

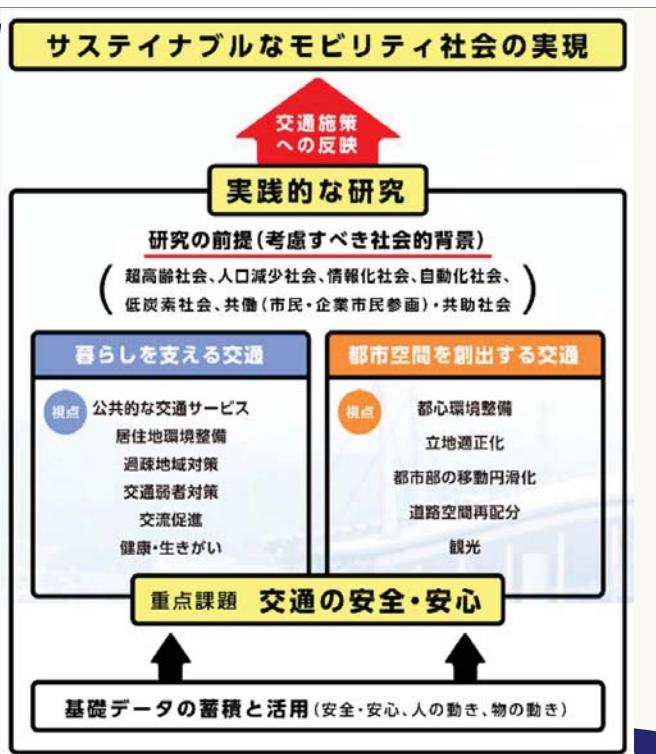
公益財団法人 豊田都市交通研究所 研究成果報告会

# 2019年度 研究活動概要

研究部長 安藤良輔

2020年7月7日(火)  
豊田産業文化センター小ホール

## 1. 2018年度 からの 中期ビジョン (研究員:10人体制)



## 目次

- 1 2018年度からの中期ビジョン
- 2 2019年度研究テーマ一覧(配布)
- 3 研究所評価プロセス
- 4 評価指標を用いた評価の結果

## 1. 2018年度からの中期ビジョン

### 研究所の事業

#### (1)調査・研究事業:

政策につながる学術的かつ実践的研究の実施

#### (2)政策提言事業

研究成果に基づく政策の提言

#### (3)情報発信・交流事業

国内外への研究成果の発信・先進的知見の収集と発信

## 2. 2019年度研究テーマ一覧(配布)

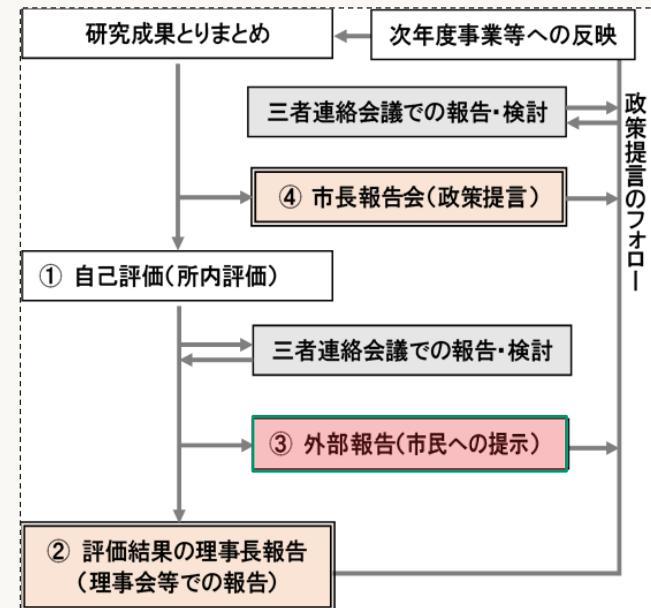
- ① 研究員：8.5人（8人+年度途中1人）
  - ② 自主研究16件+受託研究19件
  - ③ 「暮らしを支える交通」：自主7+受託4；「都市空間を創出する交通」：自主5+受託6；「交通の安全・安心」：自主4+受託9
  - ④ 2つの方向性と1つの重点課題について、バランスよく自主研究と受託研究を実施できた。新しい方向性として位置付けた「都市空間」関連のテーマがほかの2グループに遜色のない件数であって、新中期ビジョンにおける強化すべき方向性は形成したと言える。
  - ⑤ 本日の報告（各研究グループから1件）
1. MaaSの可能性（石井主任研究員）→交通をサービスとして考える  
 2. 将来都市構造について（坪井研究員）→「都市空間を創出する交通」の具体化  
 3. 稀な交通不安事象を捉えて（加藤主任研究員）→地域交通安全を実現するために

## 4. 評価指標を用いた評価の結果

役割	評価指標	2016-7年度 平均	2018年度	2019年度
① 広義の都市交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	1.8	1.6	2.3↑
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	17.5	27	19↓
	3) 論文賞等の受賞	0.5	1	1→
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕 競争的研究資金の獲得件数〔その他〕	1 2.5	2 4	2→ 4→
② 交通まちづくりの推進	5) 市（地域）への政策提案件数	7.5	12	11↓
	6) 受託研究の受注件数（件）	14.5	25	19↓
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	15	35	26↓
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕 〔講演〕	40.5 23	37 34	36↓ 34→
③ 世界への情報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	13.5	15	16↑
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催	0	1	0↓
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0.5	0	1↑
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5	5→
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催回数、イベント出展	13.5	15	16↑
	14) 各種行事記録集の発行：種類	1.5	2	3↑
	15) マスコミの露出度：報道・出演回数	9	9	5↓

赤：増大、緑：横ばい、水色：前年比で低下したが2016-17の平均値より増大か横ばい、灰：減少

## 3. 研究所評価プロセス



## 4. 評価指標を用いた評価の結果：総括

- ① 令和元年度では、本格的な市長への政策提言会を開催することができて、新中期ビジョンの目玉の一つである政策提言の強化が新しい形でスタートさせた。
- ② 年度通して、研究員の退職等により、実質85%の戦力であったにも関わらず、概ね満足できる成果を打ち出すことができた。
- ③ 過去に比較して、伸びたのは1)査読付き論文数、9)国際会議論文、11)国際的な調査プロジェクトの実施、13)発表会やセミナーの開催数、14)記録集の発行である。1)については、昨年度の総括評価で課題に挙げた量より質を重視した成果である。9)は継続的に伸びてきて、研究員の国際発信力の増大の表れである。11)に関しては、初めてJSPS\*の外国人研究者招へいの支援を獲得できて全国規模の研究機関においても難度の高い挑戦に成功した。13)はより地域密着型の出前講座のような地域セミナーの開催が功を奏した。14)は「まちべん」が100回開催という節目を迎えた結果であって、「持続が力になる」とも言える象徴であった。

\* JSPS : 日本学術振興会

## 4 評価結果：総括（続き）

- ④横ばいになっている指標に表される内容は、3)論文賞の受賞、4)科研費等競争型資金の獲得及び8)外部講演等で、元々高いレベルにあるものがほとんどで、前年度水準を維持できたことが十分に評価に値することである。
- ⑤役割の「②交通まちづくりの推進」に関わる複数ある指標で前年比が低下したものの、ほぼ横ばいや2年前に比較して増加した内容である。最も戦力に比例する指標のため15%の戦力ダウンの中でのアウトプットであることを加味すると、一人当たり実施実績は伸びたに相当すると考える。
- ⑥課題として考えるべきものは15)マスコミ等の露出で代表される一般社会における認知かもしれない。今後、この課題に関連して、政策提案重視や地に足のついた地域性とのバランスを検討しながら、最善な一般社会での認知度向上を目指していきたい。

まとめとして、新中期ビジョンの2カ年度目として、

「暮らしを支える交通」と「都市空間を創出する交通」の二つの方向性において、「交通の安全・安心」という当面の重点課題に対応した

取り組みが概ねできて、改善し続ける軌道に乗せ、順調に展開されていると評価する。

ご清聴どうもありがとうございました。